





利

目下亦甚奇固係潤沃

其亦因之... 投... 日...

味

...

...



利

子

日より好まぬ傳ふ潤沢滋栄といひ  
故に海はぐひ能耕地作十分然り  
去りも同のくみくみ魚一土沖れを  
おきしそ更しよと

百二十

家移りの古山傳ふ能多風草をく  
といひ故ふ大まふ西一付を待てし人  
こぞろてまらむむむむハよし但し  
自才のりもるんてよるハゆり

百二十三

能立の古山傳ふ能一水と生むと云  
故ふ能立のたまよし能あり  
能まらむむむむ方まらむむむ  
海よりまらむむむむむ



百四子

舞取の吉言付は揚柳同様に下り  
といふ故に大かちらり夫婦中  
むりましくむ知子出和ふし七家秘  
昌よまきとらるあり

百五子

舞取吉言付は蓬水・帆と浪と云  
故に甚求め新し求むる時に大き  
小舟ははりむこ大船と又一家を  
元とらゆき道れ程まきあひをどし

百六子

又物成来る吉言付は泥責小土塊を洗  
とこり故に大きき油しくふまき  
又どののしもし百敷又どの成時に  
災難おふくまふし

百七子

家と求る吉言付は尾解て雪の如  
と云り故に事とあまふ方と姑  
は方とぬる消散するら又  
代滅すまらるるあまきとらる後心ま



千 商賣を撃て吉田傳ふ人いんををちみん  
あといり故ふとと商ひとらゆる  
古ゆとさら魚うぶにもしとらゆる  
附い商賣とらゆるいん

二百 三 養子ふ以て吉田傳ふ父の財子用ら  
しと音り故ふ大さる直敷白方衣  
物しんまうらつふ成やま能信  
ととつしむ魚しん物に廿五の形

二 子と吉田吉田傳ふ臘月の三兩といり  
故ふけんに直しん成うあふだ急き  
子あきのふらつて布てさまへけあ  
しよくし横てよし

二 田地と求る吉田傳ふ吉田とけり  
付といり故ふ大まきよりと求めて  
梅より耕池よりしん成に女神の  
出ふりあふる大田のたはるん



二子四  
牛馬を求むる吉田侍の管を以て天とえ  
るをとり故に軍一々を以て甚く遠く  
ふれ然しややく死を以て色しこれ  
土神の靈なりしり故なり

二子五  
迷ひ子の方角侍らや月とささる  
ととりある十八九八出む人の病に  
言が治まらぬとて届し人の心を  
あましむるにめり出るるもあし

二子六  
侍人來文未侍ふ咫尺十里と云り  
故に侍人大きく迷ひ送ふて隣  
ありて延付するに扱しや事  
くは神とあるに魚し

二子七  
失物る者吉田侍<sup>時</sup>喪車後の某袋  
ととり故に出来あり出るに墨  
拍然しられ取敷く十を以て河山てし  
扱して出るにやく小いなるに



二子 田畑出来ぬ出来 侍小守を寄りて心を  
こがすとていつてはく日そんよるり又  
ハ氷物少とるう何れもたまふ昔は  
るうしうしうを

三子 夫の病ひ吉言 借ふ薬金も不迫と  
いつて放よけんにに事なふれよう  
子 くらぬやと一を升少ある時に悪  
百別とておとある時にあたる

三子 妻の病ひ吉言 侍少塵芥と小溝に漏  
とこりある病ひ執計と之血と  
二子 起るも薬は下あるし一は  
く慎むべしは荒れと伝ふと去  
三子 子の病ひ吉言 侍少地徐上歩と  
言ひ故に病人さくあくして医  
子 薬おぼや次方いひきのう  
くあ



三 孫は病ひ吉山傳ふまゝとて死  
の園子おそくとりぬあはけ  
十 人の病人に病よみまゝのあはけ  
四 ありし瘰癧も由るやうに止癒し

三 子姑ありあし傳ふ井の底にありて  
いりぬ子あまじくしたまはく  
五 有るも経命に女屋し純母を補の  
陽と助はあし月いせ子天余と保つ

三 見世を出て吉山傳ふ船行風標と  
あはけにありしは始ふまゝよみ  
六 斗を後治のハ大なる災ひありし  
よりし臨む魚し

三 右のうりて吉山傳ふ梅花もあはけ  
のぐとありし故ふ古郷に帰りぬ  
七 八志うんあはけは次きくふよ  
らしく新屋し



三千八

医考を求むる方角特砂中金を得ると  
いふは亦是も亦るの事この事同じ  
東の隅より南の首方む多き首  
然るに亦中より亦る事

四百十

一医考を成て昔の事 傳ふ病の膏首  
ありといひしは亦る医考と成てを  
亦る大さふ亦る亦る一也 まい治を  
事かといふ事

四千二

出家と成ては 傳ふ鳳飛麟ける  
とて好ぶを亦るしを亦るよし  
とてけ人の事 教ふ事 然し志  
きと成ては 傳ふ事

四千三

亦る事 傳ふ事 然し志  
とて好ぶを亦るしを亦るよし  
とてけ人の事 教ふ事 然し志  
きと成ては 傳ふ事







四  
一丈の吉画 傳ふ鳳鳴 相見 冥く  
とくく 有ふ 大まき 又 買し 其 人 之  
位 之 財 之 宝 傳ふ 其 人 之 徳  
然 我 山 港 する 人 之 財 之 宝 之 徳

五  
武家 奏 之 吉画 傳ふ 日月 初 春 之  
い 一 尺 之 由 之 主人 之 財 之 宝 之 徳  
有 一 尺 之 由 之 主人 之 財 之 宝 之 徳  
時 一 尺 之 由 之 主人 之 財 之 宝 之 徳

五  
公 事 之 法 吉画 傳ふ 風 雲 之 帆 之 港 之 徳  
一 尺 之 由 之 主人 之 財 之 宝 之 徳  
得 之 出 之 主人 之 財 之 宝 之 徳  
其 一 尺 之 由 之 主人 之 財 之 宝 之 徳

五  
高 山 之 吉画 傳ふ 海 之 月 之 徳 之 港 之 徳  
一 尺 之 由 之 主人 之 財 之 宝 之 徳  
神 之 吉画 傳ふ 海 之 月 之 徳 之 港 之 徳  
其 一 尺 之 由 之 主人 之 財 之 宝 之 徳



五 井と堀てらのとをけし一やも春とまこと  
いりしあふらたきは昔住か小糸の  
方と堀附ハ水りるべし然し  
りあけあはし

五 氣所を以て昔国付も百事悉く  
通せばといふけあし一と留してあま  
小糸の押と留のゆるけハ大まかぬあひ  
あふるし

五 人の方分物とれて昔立は巻舒時を  
とつりたぬ小物とれるけりけり時  
きる附ハあひ来る金しよく  
候てよきさあ

五 番とまてる金付ふまを本元元  
といりけ故とくんによまらんゆれ  
もも所よいままぬあひあふし  
つしむし



五、船中の吉田 傳法 法師 殿 へ  
故子は 海と おとろふし 侍が  
子 なく ちやくと やま 少石 星 さま  
八 つる 一し あり 一ふり あり

六、立身 する せざる 帽と 帯ふ ぬ  
相と といふ 故に 格別 に出世 する  
百 子 なく 品身 におも 事と 求  
る 一ふり あり 一ふり あり

六、竈 姑 鳴 吉 山 傳 法 殿 へ  
故 子 宜 しく 花 び 助 教 する  
子 ば よく 志 せん 一ふり あり  
二 おの つら 去る 一ふり あり

六、持 杖 して 吉 田 傳 法 殿 へ  
子 なく けい 人 子 教 する こと あり  
三 ひま 入 庭 する 一ふり あり  
一 あり



六 商人と成て吉田惣次と命ずるを  
十 仕と云といふに在る商人と成て仕と云  
四 夫がれを惣利欲を志するの心あり  
夫が家なく換りてし

六 吾の老を以て信ふ國原の床を柱と云  
十 けりてふ人の成らざるを云ふ  
五 のるを以て治めたるを云ふ  
あまのり

六 家督日ならずと云ふは山侍ふ小治大と云ふ  
十 と云りけ有る家とくと云てき  
子 てしさいしを治めしと云ふは  
あし作し未いよきものもあざ

六 生靈死霊の事信ふ保て証據と云  
十 といひけ有るは生霊死霊の事云ふ  
七 行ふは只一人よりおはる  
もくしん



七 七  
八 十  
老者の方角竹を曰鷹水納難しと  
とてゆんへ出て舟ひらりうらぶる之先  
老難難し急よゆゆ了 運き舟は流  
出難し東北の角をゆり

七 七  
千 十  
百 十  
重事ゆ吉田傳本暢懐車小向と  
二り故小座事ゆに理よ運るて水  
と換じ無相ふるをゆんと欲する  
左伊字よ事致七をもゆり

七 七  
二 十  
物と常並吉田傳本曰吾は花未死るを  
といふなり故に常並重て大きき悪し  
下地常事ゆり物とゆい早く常掛  
て直し釣よ赤り財ハ利あり

七 七  
三 十  
樹木と切て老吉田傳本家財根不敬  
とゆいゆり重し切る財ハ物とゆい  
し重難の根ハ大きき故と云たゆと  
先多神の次ハゆいゆり



七 家内子孫の吉田傳世行人曰く云  
は故大まき、悪く、善く、孫栄久を  
傳せりとの、いふか、之能く、信む  
四 傳し、氏神茂信人ま、傳し

七 學問始の土田傳世光曜天下明ら  
千 と云り、故大まき、ふよ、文、言、く、て  
五 大まき、人、は、用、ら、れ、万、人、の、師、也  
傳、し、統、を、な、ら、む、經、年、が、傳、し

七 金と借て吉田傳世はく、求ま、ばんを  
千 傳とい、り、故、ま、ま、ま、あ、う、ん、と、歌、る、る  
六 後、な、ま、と、云、ま、る、ま、ま、と、傳、て、傳、ま、り  
る、ま、ま、一、進、ま、し、時、ハ、益、り、り、り

七 金、た、り、し、て、吉、田、傳、世、同、名、を、家、に、傳、へ、ん  
千 是、り、故、お、初、の、ハ、物、さ、ま、ら、し、く、換、  
り、傳、り、た、始、終、ハ、換、お、し、傳、ま、り  
二、宝、を、傳、し、と、傳、し、傳、ま、り、り



七 家貨と最老の村  
八 家貨と最老の村  
九 家貨と最老の村  
十 家貨と最老の村  
十一 家貨と最老の村  
十二 家貨と最老の村  
十三 家貨と最老の村  
十四 家貨と最老の村  
十五 家貨と最老の村  
十六 家貨と最老の村  
十七 家貨と最老の村  
十八 家貨と最老の村  
十九 家貨と最老の村  
二十 家貨と最老の村

八 家貨と最老の村  
九 家貨と最老の村  
十 家貨と最老の村  
十一 家貨と最老の村  
十二 家貨と最老の村  
十三 家貨と最老の村  
十四 家貨と最老の村  
十五 家貨と最老の村  
十六 家貨と最老の村  
十七 家貨と最老の村  
十八 家貨と最老の村  
十九 家貨と最老の村  
二十 家貨と最老の村

八 貴人首見之  
九 貴人首見之  
十 貴人首見之  
十一 貴人首見之  
十二 貴人首見之  
十三 貴人首見之  
十四 貴人首見之  
十五 貴人首見之  
十六 貴人首見之  
十七 貴人首見之  
十八 貴人首見之  
十九 貴人首見之  
二十 貴人首見之

八 貴人首見之  
九 貴人首見之  
十 貴人首見之  
十一 貴人首見之  
十二 貴人首見之  
十三 貴人首見之  
十四 貴人首見之  
十五 貴人首見之  
十六 貴人首見之  
十七 貴人首見之  
十八 貴人首見之  
十九 貴人首見之  
二十 貴人首見之



八 自身の病ひ者甚だしく難面忍ん  
とつり故ふ病小しむる存し  
四 公に事をもひあぐ病ひ愈  
し医者小西の方を向てお懸  
八 親の病ひ者甚だしく難面忍ん  
とつり故ふ病小しむる存し  
五 故に格み重くはれとつり  
あまた助るんあぐ如月  
満きたるるといふが  
八 親の病ひ者甚だしく難面忍ん  
とつり故ふ病小しむる存し  
四 公に事をもひあぐ病ひ愈  
し医者小西の方を向てお懸

八 母の病ひ者甚だしく難面忍ん  
とつり故ふ病小しむる存し  
六 病ひ者甚だしく難面忍ん  
眉を閉くんあて  
八 伯父の病ひ者甚だしく難面忍ん  
とつり故ふ病小しむる存し  
十 故に格み重くはれとつり  
七 病ひ者甚だしく難面忍ん  
とつり故ふ病小しむる存し  
いよハク



八 伯母の病ひを治す術を問ふ  
の問といひ故に大志を立し十記  
十 此の二病ひ之を治す能く  
慎まざれば切に命を失ふ

伯母の病ひを治す術を問ふ  
の問といひ故に大志を立し十記  
此の二病ひ之を治す能く  
慎まざれば切に命を失ふ

伯母

問

答



